

研究者部門

受賞者： ^{はんば} 半場 ^{みちこ} 道子 (80歳)

福島県立医科大学医学部整形外科学講座 客員講師



静岡県立大学薬学部薬学科卒業、群馬大学医学部助手、1976年、同医学部にて医学博士号を取得。その後、昭和大学講師、東京医科歯科大学講師を経て、現在は福島県立医科大学で客員講師を務めながら、研究者として痛みの神経科学の究明に尽力している。「痛み研究」の草分け的存在であり、がん性疼痛の緩和、術後疼痛の軽減などに成果を挙げてきた。

長年に亘って取り組んできた研究の一つが慢性痛の解明である。慢性痛の患者数は年々増加し、各国とも人口の2割に達している。脳回路網の変容を伴う慢性痛には鎮痛剤が効かない例が多く、治療は難渋している。痛みは人が生きる上で最大の苦しみであるが、最大の謎でもあった。整形外科学会、ペインクリニック学会などへの講演を通じて、臨床領域に「痛みの神経科学」を浸透させ、治療レベルを飛躍的に向上させてきた。脳画像を駆使した著書は、痛み治療に苦慮する医師たちの道標となり高い評価を得ている。これらの活動は、医学界において女性の活躍が社会的に認められる契機となった。1995年、日本生理学会に「生理学女性研究者の会WPJ」を創設し、初代代表を務めた。女性研究者の相互交流を通じて、研究環境の改善と研究業績の向上を目指し、活発な活動を続けている。ひとりの女性研究者が多くの学術学会に影響を与え、日本における女性研究者の環境向上に尽力し、男女共同参画に導いた功績は高く評価されている。

推薦者： 赤松 良子 公益財団法人日本ユニセフ協会 会長
菊地 臣一 福島県立医科大学 常任顧問
木村 純子 福島県立医科大学 名誉教授
紺野 慎一 福島県立医科大学 副学長／医学部整形外科学講座 主任教授